

県南地区交流会報告書

日時：令和7年3月19日（水）10：00～12：00

場所：サン・アビリティーズ一関 多目的ホール

内容：パーキンソン病について勉強会

県南地区交流会開催を一関市広報に掲載し、パーキンソン病患者や家族にお知らせしました。

参加申込：22名（会員と家族5名、非会員と家族10名、保健所、さくら）

参加実数：18名

内容

- (1) 開会の挨拶（佐藤副支部長）
- (2) 支部長挨拶

岩手県内に2,000人程度のパーキンソン病患者がいます。指定難病医療受給者証を持っている方は保健所が把握していますが、重症度区分に該当せず、指定難病医療受給者証を持っていない方は保健所では把握できていません。このような方々はパーキンソン病患者が受けられる公的支援制度の対象にもならず、経済的、精神的な負担が多くなっていると思われます。このような方々に今回のような勉強会をお知らせできる方法が一関市広報に掲載することです。広報を見て参加された方が7名いますが、この機会にパーキンソン病とはどんな病気か知っていただきたいと考えています。

一関市保健所難病担当佐々木さんは毎回交流会に参加されていますので公的支援制度について知りたい方は相談していただければとおもいます。また、今回、訪問看護ステーション「さくら」の菅原さんが参加されました。リハビリテーションは薬と同じ位重要ですのでリハビリテーションについて知りたい方は相談していただければとおもいます。

- (3) 一関市保健所難病担当佐々木さん挨拶

この交流会に参加させていただき、パーキンソン病患者様の生の声を聞くことができ、一関市保健所としてなにをすべきか考える参考になっています。8月27日に一関市保健所と全国パーキンソン病友の会岩手県支部と共催で勉強会を開くことになっています。チラシ等を配布しますので是非参加ねがいます。

(4) 訪問看護ステーション「さくら」菅原代表挨拶

端坂支部長が説明されたように、パーキンソン病の療養生活向上のためには、リハビリテーションは重要です。知りたいことがあれば相談していただければ対応いたします。

(5) 講演：パーキンソン病と共に生きるために必要なこと

岩手県支部長 端坂則喜

パーキンソン病は根本的な治療方法のない難病です。1,000人に約1人、65歳以上では100人に約1人の割合で患者がいます。高齢化に伴い患者数は増加しており、世界的にパーキンソン病患者が急増する状況は「パーキンソンパンデミック」と呼ばれています。

日本を含め世界各国で根治に向けた研究がすすめられています。

パーキンソン病は緩やかに進行する病気ですので、パーキンソン病を正しく理解すること、自分の症状を理解し、主治医に客観的に症状を伝えることが大切です

以下、資料に沿って説明

(6) 質疑・応答

- ・現在の症状
- ・薬の効果が感じられない
- ・リハビリを受けるために必要な手続きは

等、活発な質疑があり、端坂支部長、菅原代表、難病担当佐々木さんが丁寧に回答しました。

パーキンソン病についてまったくわからなかったが、今回、勉強会に参加して、少しわかった。また、公的支援制度についても知ることができてよかった。次回も参加したいとの意見が多かった。

次回予定

日時：6月18日(水) 10:00~12:00

場所：サン・アビリティーズ一関